

報告書

1. 業 務 名 平成 30 年度 ラムサール条約登録湿地関係市町村会議情報発信業務
2. イベント名 ラムサール条約第 13 回締約国会議
3. 開 催 日 時 2018 年 10 月 21 日～29 日
4. 開 催 場 所 アラブ首長国連邦・ドバイ フェスティバルアリーナ
5. 概 要

アラブ首長国連邦・ドバイで開催された、ラムサール条約第 13 回締約国会議において、ラムサール条約登録湿地関係市町村会議（以下、「市町村会議」という。）の展示ブースを出展し、市町村会議の取組や会員市町村から提供されたポスター・パンフレット等を活用して国内の湿地、各湿地の取組について会議参加者に説明を行った。

ポスター及びパンフレットの提供者一覧（15 会員市町村）

- ・釧路市（釧路ウェットランドセンター）：釧路湿原、厚岸湖・別寒辺牛湿原、霧多布湿原、阿寒湖
- ・習志野市（谷津干潟自然観察センター）：谷津干潟
- ・新潟市：佐潟
- ・那覇市（漫湖水鳥・湿地センター管理運営協議会）：漫湖
- ・名古屋市（稲永ビジターセンター、藤前活動センター）：藤前干潟
- ・網走市（濤沸湖水鳥・湿地センター）：濤沸湖
- ・大崎市：燕栗沼・周辺水田、化女沼
- ・松江市：中海、宍道湖
- ・小山市：渡良瀬遊水地
- ・豊田市（豊田自然観察の森、日本野鳥の会）：東海丘陵湧水湿地群
- ・豊岡市：円山川下流域・周辺水田
- ・荒尾市：荒尾干潟
- ・中之条町：芳ヶ平湿地群
- ・佐賀市：東よか干潟
- ・鹿島市：肥前鹿島干潟

会場・来場者の様子

展示ブースは全体で 25 団体が出展しており、そのうち 7 つが日本の団体であった。日本の団体は一箇所にまとめられていたため、環境省のブース（新規・拡張湿地の紹介・展示）と協力して国内の登録湿地の紹介を行った。

会期中、会議に参加している各国の政府関係者やオブザーバー（NGO 等）が市町村会議ブースに訪れた。特に、過去に観光等で来日したことがある人、JICA の研修で日本と係ったことがある人が多く、日本や国内の湿地に対する興味・関心の高さがうかがえた。また、国内の登録湿

地が 52 か所あることに驚く人が多くいたことも印象的であった。

展示していた資料について、複数の湿地のパンフレットを持っていく場合が多く、特にツルやクロツラヘラサギなど認知度の高い大型の鳥類が表紙のパンフレットや表紙が英語表記のみのパンフレットの方が手に入る人が多かったように思われる。また、シールやポストカード、折り紙などは人気があった。

会場等の様子（写真）



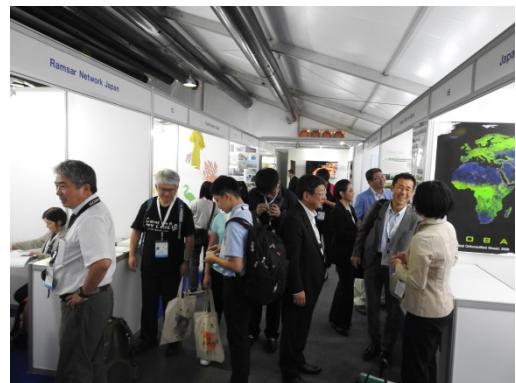
来場者に説明する様子



来場者に説明する様子



市町村会議ブース 全景
湿地タイプごとに紹介した



ブースの様子
日本の団体 7 つがブースを出展していた



本会議場の様子
決議について議論が行われた



湿地都市認証の認定証授与式
本会議場で行われた



認定証授与式

円山川下流域・周辺水田（拡張）、
葛西海浜公園（新規）、志津川湾（新規）



認定証授与式の会場の様子

各国の関係者やオブザーバー等、
100名を超える参加があった



会場周辺の景色



Ras Al Khor Wildlife Sanctuary

ラムサール条約登録湿地（No.1715）



Wadi Wurayah National Park

ラムサール条約登録湿地（No.1932）



エクスカージョンの様子

（Wadi Wurayah National Park）